

## 日本臨床細胞学会奈良県支部第2回理事会 議事録

日時：平成26年10月16日（木） 午後4時

場所：奈良県医師会館 2階会議室

出席者：小西、安達、浦、大林、河野、鴻池、笹平、島田、豊田、西川、内山、森田、小林、中村、井谷、清塚、若狭

欠席者：今井、榎木、太田、小畑、川口、金山、木枕、武田、高野、中井、中村、古川、松山、山川

### 1. 会長挨拶

小西会長より、第40回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会が盛会のうちに無事終了した旨の報告と大林副会長、豊田実行委員長、安達・鴻池両実行副委員長をはじめ理事全員への謝辞が述べられた。

### 2. 議題

#### 1) 平成26年度総会・学術集会について（資料1）

学術集会担当世話人である若狭理事より、平成26年12月6日（土）、奈良県医師会館（3階講堂）にて開催されることが報告された。

教育講演は愛媛県立医療大学・則松良明先生、特別講演は鈴鹿中央総合病院・矢納研二先生に担当してもらい、子宮内膜細胞診への理解が深まる講演であること、発表演題は募集中であるが、若狭理事より1題、安達理事より2題、西川理事より2題応募する予定であると報告された。例年7、8題であり、他施設からも応募するよう小西会長より出席理事へ要望があった。

#### 2) 平成26年度第9回奈良県支部ワークショップについて（資料2）

小西会長より、期日は平成26年1月24日（土）、会場は奈良医大・基礎医学棟講義室ならびに5階実習室で、テーマは「乳腺細胞診」であると報告された。

午前に特別講演、午後に細胞診実習が行われる予定で、大林理事より、午前の部で行われる講演は、名古屋医療センター市原周先生に依頼すると報告され、午後からの実習は奈良医大病理部により行われることが理事会にて承認された。なお、1月17日実施予定の大学入試センター試験が不測の事態によって中止となった場合には、翌週の1月24日に実施され、奈良県支部ワークショップの会場が試験会場として使用されるため、奈良県支部ワークショップは中止となる。

#### 3) 平成27,28年度総会・学術集会について

平成27年度学術集会担当世話人は、奈良医大・病理診断学講座、高野理事で。テーマは「肝

胆膵の細胞診」を予定している。

・平成 28 年度学術集会のテーマについて

河野理事より「産婦人科をはじめ臨床医に参加してもらえる様な内容にすべきである。」との提案があった。また、小林理事からは産婦人科医の立場から「清塚理事にも依頼して開業医に細胞診検体の採取法を教育してもらっているが、現場ではなかなか難しい事情もある。不適正検体であっても民間検査会社では適正として診断されることが多い」等の問題点が指摘された。清塚理事から、「臓器別にテーマを絞った学術集会ではなく、LBC という手法の利点、問題点に絞ったワークショップ形式にしてはどうか」との提案があった。日本臨床細胞学会でも同様の内容を含むワークショップがあるとの指摘もあったが、これ以外のテーマに関する提案がなかったことから、平成 28 年度学術集会担当世話人は清塚理事とし、同テーマで検討することとなった。

4) 奈良県支部会誌の内容について

今年度も昨年に続き、新人紹介を行うことで理事会の承認が得られた。

新しく奈良県支部に入会した検査士 2 名、医師 3 名（奈良医大・畠山金太先生、同・内山智子先生、近大奈良病院・若狭朋子先生）の紹介を行う。

3. 第 40 回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会について（資料 3）

小西会長より、去る 10 月 5 日に開催された第 40 回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会について、参加者数や参加者の職種・職業従事年数・勤務先（勤務地）・年齢分布などのアンケート調査結果ならびに収支決算が報告された。

出席者数は 332 名で、評価はおおむね好評であったが、ホームページの内容や会場について少々問題が指摘された。収支決算は、監事・中村理事により監査され、収入が 200 万円弱と予想以上に多かったが、これは参加費に加え、顕微鏡関連、LBC 関連 9 社の協賛金や交付金が得られたことも大きかった。そのため、収支決算の結果、余剰金 127,239 円が得られたので、これを日本臨床細胞学会奈良県支部へ繰り入れることとなった。収支決算報告書は、後日協賛会社にも報告する予定である。

4. その他

奈良医大・病理診断学講座 准教授畠山金太先生の新理事就任が理事会で承認された。

近畿大学医学部奈良病院 覚道健一先生が現在、入会手続き中である。

豊田理事より奈良県支部会報の医学中央雑誌（医中誌）への登録についての質問があり、費用、登録申請審査などについて検討することとなった。

河野理事より、平成 27 年 3 月末をもって本理事会を退会予定であること、第 40 回日本臨

床細胞学会近畿連合会学術集会についてのコメントがあった。

平成 26 年 10 月 28 日

文責 小西 登